

2022年度 事業計画書

I. 事業方針

昨年度まで二年に渡り、多くの事業活動をオンラインへ変更、あるいは中止せざるを得なかったが、今年度はコロナウィルス感染拡大が完全に収束し、通常の事業活動に戻れることを期待する。

今年度も引き続き、「国際競争力強化を視野に事業推進」「会員にとって魅力ある企画の実行」「次世代経営者・技術者育成事業」の3つの柱を軸に事業活動を推進する。世界的にカーボンニュートラル実現に向けての取り組みが加速し、新たな技術、巧みな技能、斬新な発想が求められる今、機械産業を下支えする「歯車」に従事する当会が果たすべき責務はますます大きくなる。

コロナ禍でできなかった対面による事業活動を少しでも従来の形式に戻し、情報交換の場、最先端の技術を学ぶ場を増やし、目まぐるしく変化する社会のニーズを察知し、新たにチャレンジする感性・感覚を磨きたい。

昨年、全面的にオンラインに変更して実施したギャカレッジについては、一年を通してコロナ感染拡大の予想が立たないことから、今年度も実習を省き講義をすべてオンラインとする。オンラインならではの良さはあるものの、受講生同士の交流が若きエンジニア育成に何よりも重要でなる。コロナウィルス感染が完全に収束した段階で、交流の機会を設けることも考えていきたい。ギャカレッジ修了生を対象にした情報交換、技術交流の場であるギャカレッジ・フォローアップ研修会の活動充実にも取り組む。若手経営者研究会についても、これからの歯車業界を担う経営者にとって魅力的な内容を検討し展開する。

ISO国際規格の対応も引き続き大きな柱となる。改正に深く関わりながらJIS規格への整合も進める。優良会社を工場見学して経営に関する学習を行う場として経営研修会を設けており、訪問先のガイドラインに沿った感染対策を徹底した上で実施する。鋼材品質評価法のフォローも引き続き実施する。

JGMA News発行を含む広報活動に力を入れるとともに、昨年度から取り組んでいる高齢者雇用推進事業については、今年度は「歯車製造業高齢者雇用推進ガイドライン」を作成する。

会員各位にとって有益な工業会を目指し、産官学の連携を密にして今年度も事業に邁進していく所存である。

II. 実施事業

1. 経営力強化事業

1.1 経営研修会

優良企業の見学会、並びに人材開発、教育、経営管理等の実例に基づいた改善活動事例の研修会を年4回開催する。経営力・技術力の強化を目的とし、研修会を通して、経営・技術上の有益な情報・知識を習得し、事業発展に生かす。また、会員同士の交流を深め、新たなビジネスチャンスを創出できるように事業を推進する。

1.2 人材育成・教育

企業の長期安定的な発展の基礎となる中核人材育成事業を実施する。産業技術の競争力向上、そのための技術力強化は、歯車工業会の基本的なミッションの1つであり、次世代を担う技術者養成のための人材育成事業はその根幹にある。

1.2.1 JGMA ギヤカレッジ

昨年度同様、今年度もコロナ感染防止を配慮し、座学のためのWebによるライブ講義として開催する。

- (1) JGMA ギヤカレッジ マスターコース（基礎講座） 定員30名

歯車の基礎・設計・製造に関する講義から構成される。

- (2) JGMA ギヤカレッジ プロフェッショナルコース（応用講座） 定員20名

応用に重点をおいた歯車の設計・製造・性能評価に関する講義から構成される。

1.2.2 ギヤカレッジ・フォローアップ研修会

JGMAギヤカレッジ修了生の更なるステップアップの場として、ギヤカレッジ・フォローアップ研修会を実施する。

修了生自身による自主運営を原則として、歯車技術者のネットワークづくりと技術力向上、現場の困りごと解決について考えることに重点を置き、ディスカッションを中心とした研修とする。

2. 規格・標準化事業

グローバル化が進む歯車業界における競争力強化に向けて、ISO規格の制定、改訂への積極的な関与がますます重要になる。日本歯車工業会は、永年に渡りISO/TC60(歯車専門委員会)

において全ての事案への投票義務を負い、業務に積極的に参加してきたが、関係全WGへの出席は難しい面もあり、取捨選択を行い、必須WG（精度・用語、ベベル・ウォームギア、強度等）に出席する。

本年度は、将来のISO国際会議出席者の育成を計るため、2023年度のJKA補助事業「国際競争力強化に資する標準化の推進」（補助率3/4）を申請して、複数の委員を国際会議に派遣できる仕組み作りに取りかかる。また、EVなど様々な知見を有する方々に新委員として参加していただけるように幅の広い組織づくりをしていく。

3. 技術及び研究開発事業

歯車製造分野における高齢化とそれに伴う後継者への伝承のため、次世代の経営者および技術者を対象として歯車に関する基礎教育を重点に支援を行う。

3.1 技術・企画運営委員会

若手経営者研究会と称して、次世代経営者による相互研鑽とネットワーク構築を目的とした歯車業界の技術者、経営者育成事業を推進する。年4回開催予定。

また、産学連携を推進することを目的に、講演や訪問を通じて大学などの研究機関との間で相互理解を深めるとともに活発な交流に繋げる。年2回実施予定。

3.2 中堅技術者向け基礎技術教育

大学教授、業界の第一線技術者より講師を選定し、目的に沿った演題を設定した歯車技術研究会（日本機械学会:歯車基礎技術講座）を日本機械学会と連携で年3回協賛開催する。

3.3 JGMATE運営委員会

2020年度に制定した「JGMA9901-01：歯車用鋼材のマイクロビッカース硬さ分布の多点測定法とその評価」に基づき、歯車用鉄鋼材料の適正且つ効率的な評価を目的として、引き続き鋼材硬度測定サービスを実施し、各種鋼材データを積み上げる。

4. その他

4.1 生産性向上設備投資促進

産業競争力強化法（平成25年法律第98号）の規定に基づく先端設備に該当する旨の証明書を発行する団体として、引き続き、証明書発行サービス等の事業を行う。

4.2 広報委員会

4.2.1 歯車関連製品に関する生産、流通等の調査

会員企業並びに歯車産業界における、歯車関連製品の生産動向並びに需要先別調査を継続して行い、業界動向を把握し、データ解析のうえ企業経営の一助として情報を提供する。

4.2.2 広報・PR事業

工業会の活動状況等の情報を会員企業や学術教育研究機関、マスコミ、シンクタンク等にホームページや機関誌等で提供することにより、関連企業及び分野に広く情報を発信していく。

4.2.3 機関誌の発行並びにホームページの充実

機関誌「JGMA News」（年2回）を継続発行し、歯車産業に関する各種最新情報及び話題、関連業界の動向、経済産業省の各種施策、工業会活動報告等を広く情報を提供していく。

また、会員情報や書籍販売、各種統計等の最新情報をホームページに随時更新する。

4.3 総務委員会

4.3.1 各種団体保険の加入促進

当会にて従来から制度化している「団体PL保険」並びに「団体生命保険」について、さらに多くの会員企業に有効的に活用していただくため、加入促進活動を行う。

両制度の継続と規模メリットを享受していただくため、今後も活動を強化していく。

4.3.2 歯車製造業 高齢者雇用推進事業

昨年度に実施した、高齢者雇用に関するアンケート調査とヒアリングによる実態調査の結果に基づき、今年度は会員企業等が高齢者雇用推進に取り組む際の手引きとなる「歯車製造業高齢者雇用推進ガイドライン」を作成する。あわせて「歯車製造業 高齢者雇用推進ガイドライン」の普及活動としてセミナーを開催する。

以上